

鹿児島県奄美大島佐仁方言

白田 理人

1 はじめに

奄美大島佐仁方言（以降佐仁方言）は、奄美大島の北端の佐仁（さに）集落（鹿児島県大島郡奄美市、旧笠利町）で話される（以下地図参照）。奄美市役所発行の資料によれば、2016年12月現在の佐仁集落の人口は289人である。

佐仁方言を流暢に話すのは主に65～70歳以上である。地域における方言継承に関わる活動として、現在、小学校の朝の朗読・給食時・学習発表会におけるあいさつが方言で行われており、また小学生及びPTAによる伝統的な八月踊り¹の継承活動が行われている。

佐仁方言の先行研究として、語彙集（狩俣2003）、アクセント付き名詞・用言資料集（上野1996・1997）、敬語形式の報告（重野2014）がある。

佐仁方言は近隣の方言との違いが大きく、「言語の島」と言われている。主な特徴として、先行研究によれば、両唇破裂音の保持（例 p^ha「葉」）、語頭で広母音、半広母音に遡る母音の前でのkの摩擦音化（例 hata「肩」、xī「毛」、hufi「腰」）、母音間のmの弱化／脱落及び鼻母音化（例 jaã「山」）がある（狩俣2003、上野1996・1997参照）。

今年度の予備調査²では、mの脱落に関する音韻面の断片的な調査と、動詞の活用の調査を行った。

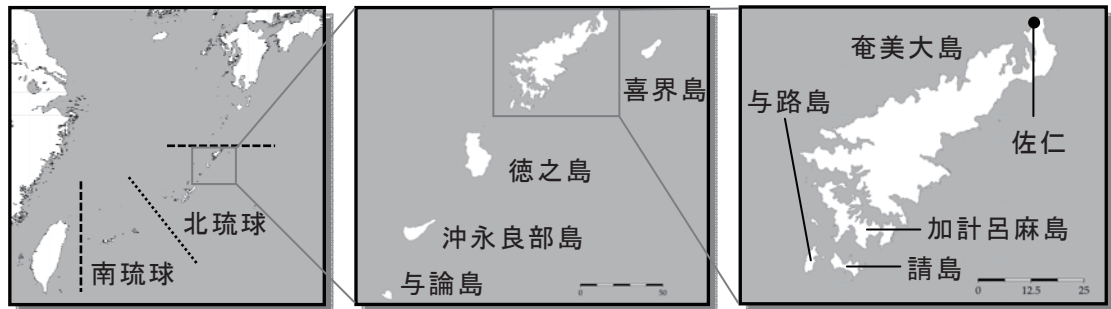


図 1 琉球列島／奄美群島／奄美大島／佐仁集落の位置³

2 音韻面—m脱落について

狩俣（2003）は、ĩ, ã, õ, ĕの4つの鼻母音を音素として立てているが、調査した中で鼻母音を持つのは80代、90代の数人であったと報告している。今回の予備調査で、昭和13年

¹ 方言で歌いながら輪になって踊るもので、伝統的に、豊年祭などで踊られる。

² 2017年2月に行った、佐仁集落出身・在住の前田安田重照氏（昭和13年生）、安田絹枝氏（昭和18年生）、前田和郎氏（昭和15年生）への聞き取り調査である。

³ 国土地理院発行の地図データをもとに Thomas Pellard 氏が作成した地図を編集した。

～18年の話者を調査したところ、やはり鼻母音は見られなかった。同じ母音に挟まれた m が脱落した語形は、単独形の場合は長母音として、短母音の語形と区別されていた。なお、一モーラ名詞語幹に二モーラ以上の助詞が後接する場合、名詞語幹が長母音化するが、その場合はアクセントでの区別が見られた（例 [ja:nanti 「家に」、ja[:nanti 「山に」）。また、異なる母音の間で m が脱落した場合、母音の融合が見られるものがあった。以下の表に語例を示す。話者によって異なる語形が見られたものは（ ）に示している。また、長短および母音の最小対となる語例について併記している。

表 1 m 脱落語彙調査結果

母音	意味	語形	母音	意味	語形	母音	意味	語形
a:	浜	p ^h a:	o	腿	mo:	u:	爪	tsu:
		cf. p ^h a 「葉」		雲	k ^ʔ o:		詰めた	tsu:ta
	山	ja:		肝	k ^ʔ jo:		夢	j ^ʔ u:
		cf. ja 「家」		島	ʃo:			cf. j ^ʔ u 「魚」
au	雨	au	暇	pjo:	締めた	ʃu:ta		
	豆	mau	米	φuī (/φu:)	嫁	ju:		
	亀	hau		cf. φu: 「今日」		cf. ju 「湯」		
	瓶	hau	読め	juī (/ju:)	褒めた	φu:ta		
	やめた	jauta	飲め	nuī (/nu:)	染めた	su:ta		
	覚めた	sauta	履け	k ^ʔ uī (/k ^ʔ u:)	褒めた	φu:ta		

2 動詞活用について

動詞の活用の予備調査結果に関して、特筆すべき二つの点を述べる。

一点目は、m 脱落と活用クラスの関係である。語幹末が *m に遡る動詞には、w 語幹と同じ活用を示すもの (ajuN 「編む」)、過去形のみで w 語幹と異なるもの (ugajuN 「拝む」)、過去形・否定形で w 語幹と異なるもの (kajuN 「食べる」) の三つのパターンが見られた。

二点目は k の喉頭化と語形変化の関係についてである。*ki に遡る音節は形態素中では基本的に k^ʔi で現れるのに対し、k 語幹動詞の不定形 (日本語の連用形と歴史的に対応) の形態素境界では、ki で現れていた (例 iki 「行き」、uki 「置き」 cf. ik^ʔi 「息」、uk^ʔi 「沖」)。k 語幹動詞のその他の活用形では非喉頭化の k が現れるため、パラダイムの水平化の結果 k が非喉頭化した (もしくは k の喉頭化が避けられた) ことが考えられる。

次頁の表に動詞活用の調査結果を示す。不定形は「～もしない (X=daka siraN、X=n siraN、X=pi siraN)」の形で採取した。便宜的に活用のパターンを語末音ごとにラベリングし、語末音が同じでパターンが異なる場合は番号で区別している。「履く」と「閉める」、「起きる」と「植える」、「探す」と「通る」のペアは、それぞれ前者にピッチの上昇、後者に下降が見られ、アクセントが区別される。また、「替える」と「植える」の非過去形がその他の活用形と異なり短母音で現れているが、これらはピッチの下降が見られ、アクセントと (閉音節での) 母音長が相関している可能性がある。

表 2 動詞活用調査結果

	意味	否定	意志勧誘	命令	非過去	不定	過去
b	遊ぶ	asibaN	asibo	asibi	asibuN	asibi	asida
	飛ぶ	tubaN	tubo	tubi	tubuN	tubi	tuda
	頼む	taNbaN	taNbo	taNbi	taNbuN	taNbi	taNda
w1	洗う	arawaN	arao	arau	arajuN	arai	arata
	思う	o:waN	—	o:u	o:juN	o:i	o:ta
w2	会う	awaN	ao	au	ajuN	ai	auta
	編む	awaN	ao	au	ajuN	ai	auta
	買う	hawaN	hao	hau	hajuN	hai	hauta
w3	拝む	ugawaN	ugao	ugau	ugajuN	ugai	ugada
	歪む	jugawaN	—	—	jugajuN	jugai	jugada
a	食べる	kaN	kao	kau	kajuN	kai	kada
	痛む	jaN	—	—	jajuN	jai	jada
uw1	追う	uwaN	uo	ui	ujuN	ui	uta
	閉める	k ² uwaN	k ² uo	k ² ui	k ² ujuN	k ² ui	k ² uta
uw2	飲む	nuwaN	nuo	nuī	nujuN	nui	nuda
	履く	k ² uwaN	k ² uo	k ² ui	k ² ujuN	k ² ui	k ² uda
	喜ぶ	juruk ² uwaN	juruk ² uo	juruk ² ui	juruk ² ujuN	juruk ² ui	juruk ² uda
t	持つ	mutaN	muto	muti	mutfuN	mutfi	muttfa
	待つ	mataN	mato	mati	matfuN	matfi	mattfa
s	干す	pūsaN	pūso	pūsī	pūsfuN	pūfi	pūfa
	隠す	hakūsaN	hakūso	hakūsī	hakūsfuN	hakūfi	hakūfa
	回す	ma:saN	ma:so	ma:sī	ma:sfuN	ma:fi	ma:fa
k1	焼く	jakaN	jako	jakī	jakjuN	jaki	jafa
	置く	ukaN	uko	ukī	ukjuN	uki	ufa
	掃く	pokaN	poko	pokī	pokjuN	poki	po:fa
	招く	maNkaN	maNko	maNkī	maNkjuN	maNki	maNfa
k2	拭く	pūkaN	pūko	pūkī	pūkjuN	pūki	pūtfa
	突く	sīkaN	sīko	sīkī	sīkjuN	sīki	sītfa
	歩く	akkaN	akko	akkī	akkjuN	akki	attfa
	解く	pūkkaN	pūkko	pūkkī	pūkkjuN	pūkki	pūttfa
ik1	聞く	kīkjaN	kīkjo	kīki	kīkjuN	kīki	kītfa
	弾く	pīkjaN	pīkjo	pīki	pīkjuN	pīki	pītfa
ik2	行く	ikjaN	ikjo	iki	ikjuN	iki	idza
g1	漕ぐ	φugaN	φugo	φugī	φugjuN	φugi	φudza
	泳ぐ	o:gaN	o:go	o:gī	o:gjuN	o:gi	o:dza
iNg	掴む	miNgjaN	miNgjo	miNgi	miNgjuN	miNgi	miNdza

r	売る	uraN	uro	urī	urjuN	uri	uta
	通る	tu:raN	tu:ro	tu:rī	tu:rjuN	tu:ri	tu:ta
ir1	もらう	jiraN	jiro	jiri	jirjuN	jiri	jita
ir2	座る	jiraN	jiro	jiri	jirjuN	jiri	jifa
	煮る	jiraN	jiro	jiri	jirjuN	jiri	jifa
ir3	着る	kʰiraN	kʰiro	kʰiri	kʰirjuN	kʰiri	kʰitʃa
	走る	pʰaʃiraN	pʰaʃiro	pʰaʃiri	pʰaʃirjuN	pʰaʃiri	pʰaʃitʃa
ir4	入る	iraN	iro	iri	irjuN	iri	ittʃa
bir	括る	kʰubiraN	kʰubiro	kʰubiri	kʰubirjuN	kʰubiri	kʰupitʃa
bur	被る	haburaN	haburo	haburī	haburjuN	haburi	hapūta
	眠る	nīburaN	nīburo	nīburī	nīburjuN	nīburi	nīpūta
	吸う	ʃiburaN	ʃiburo	ʃiburī	ʃiburjuN	ʃiburi	ʃipūta
gir	握る	ɲigiraN	ɲigiro	ɲigiri	ɲigirjuN	ɲigiri	ɲikitʃa
	たぎる	tagiraN	—	—	tagirjuN	tagiri	takitʃa
i	出る	idziraN	idziro	idzirī	idziN	idzi	idzita
ī	投げる	nagīraN	nagīro	nagīrī	nagīN	nagi	nagīta
e	開ける	jʰe:raN	jʰe:ro	jʰe:rī	jʰe:N	jʰe:	jʰe:ta
ë	替える	hë:raN	hë:ro	hë:rī	hëN	hë:	hë:ta
u	植える	u:raN	u:ro	u:rī	uN	u:	u:ta
	起きる	u:raN	u:ro	u:rī	u:N	u:	u:ta
	探す	tu:raN	tu:ro	tu:rī	tu:N	tu:	tu:ta
	溜める	tauraN	tauro	taurī	tauN	tau	tauta
o	召し上がる	miʃoraN	miʃoro	miʃorī	miʃoN	miʃoi	miʃoʃa
	いらっしゃる	o:raN	o:ro	o:rī	o:N	o:i	o:ʃa
特殊	居る	wuraN	wuro	wurī	wuN	wuri	wuta
	ある／ない	nëN	—	—	aN	ari	ata
	する	sīraN	sīro	sīrī	ʃuN	ʃi:	ʃa
	言う	jʰaN	jʰo	i	jʰuN	i:	iʃa
	見る	ɲaN	ɲo(:)	ɲi(:)	ɲuN	ɲi:	ɲiʃa
	来る	kuN	ku:	ku:ja:	kjuN	ki:	kʰitʃa

引用文献

上野善道（1996）「奄美大島佐仁方言のアクセント調査報告—名詞の部」『琉球の方言』20:26-57.

上野善道（1997）「奄美大島佐仁方言のアクセント調査報告—用言の部」『琉球の方言』21:1-42.

狩俣繁久（2003）『奄美大島笠利町佐仁方言の音声と語彙』吹田：大阪学院大学情報学部.

重野裕美（2014）「北琉球奄美大島佐仁方言の敬語形式」『広島経済大学研究論集』36(4):75-85.